

委員会記録

◇ 第一回委員会 大会第二日の十月二十九日ひる、運営委員、

編集委員の合同委員会を行い、次の点を確認しました。

① 年報編集については大会で承認された編集についての申合せに従って行うこととし細部については編集委員会に一任する。なお場合によっては編集関係事務を事務局と別にすることがあり得る。

② 次期大会は同志社大学にお世話をお願いする。新年庶務局は成蹊大学で担当する。

◇ 第二回委員会

十一月七日、編集委員及び在京運営委員による合同委員会を開催。出席は小池基之、福武直、中野卓、島崎稔、蓮見首彦、高山隆三、吉沢四郎、安原茂。

△編集委員関係V。年報第七集の編集について協議し、大会報告者のうちから原稿をお願いする方をきめ、研究動向についても候補者をきめ早急に執筆をお願いすることとしましたが、この他に会員からの公募により一―二篇の寄稿をお願いすることとしました。研究動向については執筆者確定次第研究通信でお知らせしますので、抜刷送付などを会員諸兄の御協力をお願いします(確定した分野については別記参照)。公募については別記要領を御参照下さい。大会の共同討議は司会していただいた三氏の協議によりまとめたいだくこととなりました。

なお、原稿依頼は事務局で行うが、爾後の編集事務については

柿崎編集委員にお願いすることになりました。

△運営委員関係V。次期大会については同志社大学所属会員の方々にお世話をお願いすることになっていましたが、同会員の方より御快諾得られたことが報告されました。

○次期大会の共通課題は、一八回大会の討議をうけてこれを調査に具体化しその成果をもちよることとされていますが、その焦点をどのようにしぼるかはさらに検討されなければならぬ——ということから、大会までに会員からの要望をきくこともに研究会を何回か開いて課題の展開をはかってゆくこととしました。さしあたり第一回の研究会では大会討議の司会に当られた三氏から問題提起をお願いすることが望ましいのではないかと、ということで研究会の準備を進めることとなりましたが、会員諸兄から積極的な御意見を期待しております。

○総会席上で村研二十周年のための企画が要望されましたが、その一つの具体化として村研通信全号を事務局に揃えることなどが話題とされていきましたので、事務局でこれを進めることとなりました。